京都医労連通信　2025年7月29日　NO1689

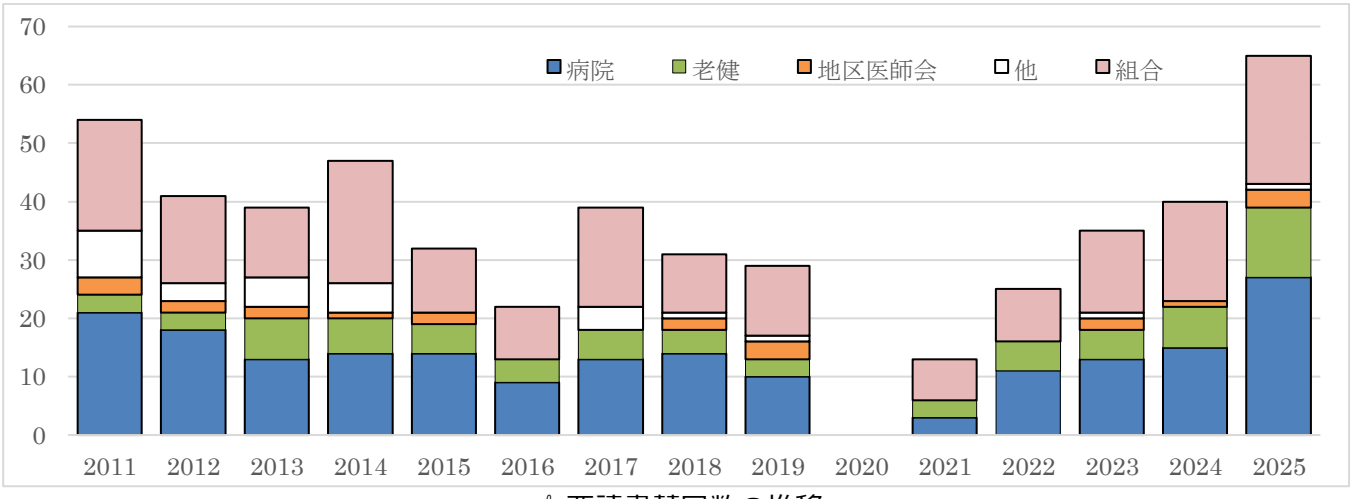
～1987年～38年間、京都の医療や介護のなかまの声を行政に届け続けてきた～

2025いのちまもるキャラバン行動

6月4日～7月11日の約１ヶ月間、府内のすべての病院・老健（介護医療院）・地区医師会等を約330ヶ所訪問し、団体要請の協力依頼、医療・介護現場の実態を聞かせてもらい、意見交換を行ってきました。事務長をはじめ現場職員らと100ヶ所で懇談し、経営課題や医療・介護制度上の問題、現場からの具体的な要望を広範に聞き取り、懇談では、地域医療・介護を支える病院や介護施設等が、慢性的な人材不足や経営悪化の中で深刻な運営を強いられている現状が浮き彫りとなりました。加えて、7月前半に医師会・看護協会・市立病院協会・保険医協会・歯科保険医協会・保険医協会と懇談し、１ヶ月間行ってきたキャラバンで出された現場の声等を伝え、来年の診療報酬改定の引き上げの共同を呼びかけました。

訪問先	訪問件数	要請書賛同	賛同率
医療機関（病院・診療所）	164	27	16.5%
介護施設（老健・介護医療院等）	78	12	15.3%
労働組合	57	22	38.6%
地区医師会	24	3	12.5%
その他	8	1	12.5%
合計	331	65	19.6%

今回のキャラバン行動では、67通の賛同された要請書が集まりました。これは、2011年（2020年～2022年はコロナ禍で郵送のみ）以降、最多数で、懇談回数100ヶ所とあわせて、現場の危機感と期待を示すものです。また、この行動に参加した組合員は、第一日赤職組・第二日赤労組・高雄病院労組・民医労・洛西ニュータウン病院労組・ルネス病院労組・太秦病院労組・全医労・個人加盟分会から39人の参加を含め、延べ70人です。厳しさを増す現場の状況の中でも、多くのなかまが参加しました。



要請書賛同数の推移

懇談で出された主な意見や要望など…

採用難に関する深刻さ

募集をかけても応募がほとんどなく、採用面接までたどり着かない（介護事業所）

若手のなり手がいない。医療職も介護職も、高齢化が進んでいる（医療機関）

過酷な現場の実態と離職増。

人がいない分、残っている職員の負担が増え、精神的にも限界（介護職員）

夜勤明けも休めない。若手が辞めていくのは当然の流れだと思う（看護師）

物価高騰、人件費増に見合わない経営体質

最低賃金は上がっているのに、基本報酬は据え置き。収支が合わない

光熱費、物価、保険料の上昇…全部積み上がっているが、報酬は微増。施設の赤字が慢性化している

ベア評価料・新介護加算の限界

処遇改善加算は手間のわりに現場に届く実感が乏しい

一部にしか行き渡らず、職員の不満が大きい

診療報酬・介護報酬への要望

処遇改善分を基本報酬に恒常的に組み込むべき

現行の配置基準では安全なサービス提供が困難。現場に見合った基準設定が必要

寄せられた声は、緊急支援策、来年度の診療報酬改定、介護報酬の期中改定等、今後の制度改善の資料としてまとめ、国には８月 20 日、京都府には８月 28 日の要請行動に反映する予定です。私たちは来年以降もキャラバン行動を通じて、現場の声をすくい上げ、行政に働きかけを強めようと考えています。来年以降もこの行動へのご協力をお願いします。